

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年 10月8日(水) 6校時
児 童 男子10名 女子12名 計22名
指導者 船山 文枝

1 単元名 材料の選び方を考えよう

教材名 「アップとルーズで伝える」／「四年三組から発信します」(光村図書・4年下)

2 単元について

(1) 能力について

第3・4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書をしようとする態度を育てる。」ことである。

本単元は、「読むこと」と「書くこと」の2領域の学習内容を関連づけた複合単元である。第1教材「アップとルーズで伝える」(説明文)の主な指導事項は、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」(読イ)及び「目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと」(読オ)である。

(2) 児童について

児童は、3年上の「ありの行列」の学習で段落という概念を学び、4年上の『「かむ」ことの力』では段落相互の関係について考えながら、「初め(問いかけ)」「中(説明)」「終わり(まとめ)」という文章構成をとらえる学習を行ってきた。

4月に実施した標準学力調査によると、国語の「読むこと」における学級正答率は70.5%であり、説明文の内容を読み取る問題については67.0%であった。中でも、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えることができる(読イ)は54.5%、目的に応じて細かい点に注意して文章を読むことが出来る(読オ)は59.1%と、期待正答率の70.0%をいずれも大きく下回っていた。

(3) 教材について

「アップとルーズで伝える」は、わたし達が日頃よく目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心に述べたものであり、児童にも身近に感じられる内容をテーマにした説明文である。

テレビを通してさまざまな情報を取り入れている子ども達にとっては、テレビの流す情報が全て真実だと思いこんでいる可能性も少なくない。本教材は、文中には分かりやすい写真が資料として使われており、「アップ」と「ルーズ」について対比的に読み進めていく中で、メディアを発信する側の意図に迫っていくことができる。また、段落構成・中心文・重要語句・要約などの学習にも適しており、読む力を育む上でも十分に活用できる教材である。

(4) 指導にあたって

第1教材「アップとルーズで伝える」を読む活動では、説明文の読み取り方の基本をおさえながら、以下の点に留意して学習を進めていきたい。

第一次では、まず練習教材「カブトガニを守る」を用いて、段落のつながりに気をつけて全体をまとめる学習を行う。次に、教材文をすらすら読めるようにするために、さまざまな方法での音読練習を取り入れて読み取りへの抵抗を少なくする。

第二次では、読み取りの手引きをもとに、「問い」と「答え」の文を探し出したり、重要語句・接続語・指示語・文末表現などに着目したりさせながら、形式段落毎の要点や要旨をまとめる活動を積極的に取り入れていく。

第三次では、それまでの読みをふり返りながら小見出し・大見出しを付け、段落の役割や文章構成についてもとらえられるようにする。また、練習教材「キョウリュウをさぐる」を用いて、要約する力を磨いていきたい。

第四次では、自宅や地域にある『昔ながらの物』について取材し、「アップとルーズで伝える」の学習内容と単元末のコラム「選んで伝える」を参考にしながら、相手と目的に応じた情報の選択・発信を体験的に学ばせていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ◎ 「アップ」と「ルーズ」という映像の技法について知り、伝えたいことと伝える方法に興味を持つ。
- ◎ 対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけながら文章の中心を落とさずに読む。
- ◎ 学校や地域にあるものについて知らせるために取材し、相手と目的に応じて材料を選び、わかりやすく伝える。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・伝える目的や相手に 応じて、情報の材料 や選び方や表現方法 が異なっていること に気づき、自分が表 現していくときに役 立てていこうとして いる。	・取材した事柄を相手 に応じて分かりやす く書いている。 (書ア) ・相手や目的に応じ、 必要な材料を集めた り、選択したりして 書いている。(書イ)	・それぞれの段落が文章全 体の中でどんな働きをし ているかをとらえている。 (読イ) ・アップとルーズの働きに ついて、写真と対応させ ながら中心となる語や文 をとらえて読んでい る。 (読オ)	・文章全体の中で の、それぞれの段 の役割を理解して いる。(言オ(イ))

4 単元の指導計画（18時間）

「アップとルーズで伝える」				
段階	時	学 習 活 動	指導事項・留意点	評価規準
第 一 次	1	○「カブトガニを守る」を読み、読み取りの練習をする。	・練習教材を用いて、基礎的な技能を身に付けさせる。	【関】既習事項を生かして、積極的に教材文を読もうとしている。
	2	○「アップとルーズで伝える」を読み、大まかな内容をつかむ。	・教材文の音読練習をさせる。	【関】「アップとルーズで伝える」を通読し、学習に意欲をもっている。
	3		・語句の意味を調べさせる。 ・全体を3つのまとまりに分け、学習計画を立てさせる。	
第 二 次	4	○写真と文章を照らし合わせながら読む。	・①②段落と写真[A] [B]を対比させながら読み、重要語句をとらえて、写真にキャプションを付けさせる。 ・「初め」のまとまりから「問い」の文を見つけさせる。 ・①～③段落の関係を考えさせる。	【読】写真と文章の関係や「アップ」と「ルーズ」の意味を理解している。
	5	○段落相互の関係を考えながら読む。	・「中」のまとまりから「答え」の文を見つけさせる。 ・接続語に着目して中心文をとらえ、「アップ」と「ルーズ」の違いについてまとめさせる。（要点） ・④～⑥段落の関係を考えさせる。	【読】「アップ」と「ルーズ」それぞれの長所と短所を読み取っている。
	6	○筆者の伝えたいことをとらえる。	・⑦段落から、新聞の写真におけるアップとルーズについて読み取らせる。 ・⑧段落を読み、筆者の伝えたいことについてまとめさせる。（要旨）	【読】アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。
第 三 次	7	○段落の役割を考え、文章全体の構成をつかむ。	・各段落に小見出しをつけさせる。 ・段落のまとまりを考えて大見出しをつけさせる。 ・段落構成を図にまとめさせる。	【読】段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。
	8	○「キョウリュウをさぐる」を読み、要約の練習をする。	○練習教材を用いて、説明文の要約力を身に付けさせる。	【読】教材文の内容を理解し、重要語句をとらえて要約している。
「四年三組から発信します」				
第 四 次	9 18	○伝えたい情報を選び取材・構成・表現のステップをふんで作品にまとめる。	・教科書の作例の工夫点について考えさせる。 ・題材を決め、取材させる。 ・材料を選び、構成を考えさせる。 ・下書きをし、互いに読み合って校正をさせる。 ・清書して仕上げ、掲示させる。	【書】相手や意図に応じて写真や材料を選び、分かりやすくまとめている。 【関】友達の見解も取り入れながら、意欲的に作業している。

6 本時の指導

(1) 目標

- 中心文をとらえて、「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を読み取ることができる。

(2) 指導の構想

- 本時は、「答え」にあたる部分を含む「アップ」と「ルーズ」の内容読み取り場面である。ふかめる段階では、まず「答え」の文探しから接続語「このように」に着目し、前述部分に目を向けさせていく。次に、逆接の接続語「しかし」「でも」に着目して、長所との後に記述されている短所にも気づかせていく。また、学習の手引き（読み取りのコツ）を活用して、説明文指導において重要な「中心文」「キーワード」「要約」といった用語やその用法を確かめながら、課題に迫っていきたい。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
つ か む 5 分	1 前時の学習を想起する。 ・ ①～③段落を音読しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップ」と「ルーズ」の言葉の意味について復習し、「問い」の文から本時の学習課題へと関連付ける。 	
	2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> アップとルーズには、どんなちがいがあろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習場面を音読する。 		
ふ か め る 30 分	3 学習場面を読み取る。 (1) 「答え」の文を探し出す。 ・ 「問い」の文に対する「答え」の一文はどれですか。 (2) 「アップ」と「ルーズ」の違いをまとめる。 ・ 2枚の写真からは、それぞれどんな様子が伝わりますか。 ・ アップとルーズが伝えられることと伝えられないことを、短くまとめましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「このように」は前述の内容をまとめるときに使う接続語であることを知らせ、④⑤段落に注目させる。 ・ 前時の学習を生かし、④⑤段落と写真C Dを対比して考えさせる。 ・ 「しかし」「でも」に着目させ、これらの前後には逆の内容が書かれていることをとらえさせる。 ・ 『読み取りのコツ』(手引き)をもとに、見通しをもたせ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「答え」の一文を見つけることができる。(サイドライン) ◎ 「アップ」と「ルーズ」それぞれの長所と短所を読み取っている。(ワークシート)

	(3) 全体での確認をする。 ・ 大事なことを落とさずにまとめることができたかを確認しましょう。	てから要点をまとめさせる。 (各40字以内) ・「キーワード」「文末表現」「字数制限」の条件に照らし、隣同士で採点させる。	
まとめ 10分	4 本時の学習をふり返る。 (1) まとめの音読をする。 (2) 自己評価をする 5 次時の学習内容を知る。	・「アップ・ルーズ・まとめ」の構成をふり返りながら、要点を音読させる。 ・次時は「まとめ」の段落を読み、筆者の考えを読み取ることを知らせる。	○接続語を手がかりに、④～⑥段落の構成を考えている。

(4) 具体的評価規準

A: 「アップ」と「ルーズ」それぞれの長所と短所を読み取り、「キーワード」「文末表現」「字数制限」の条件を満たしながら、自分の言葉で要点をまとめている。

B: 「アップ」と「ルーズ」について、それぞれの長所と短所を読み取り、文中の言葉を使って要点をまとめている。

Cへの配慮: 『説明文読み取りのコツ』(手引き)をもとにして、「アップ」と「ルーズ」の特徴の見つけ方を個別指導する。

(5) 板書計画

まとめ	答え ⑥	(ルーズの写真) ⑤	(アップの写真) ④	問い
<p>アップとルーズを切りかえながら放送をしています。</p> <p>それで、テレビでは、目的におうじて</p>	<p>このようにアップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります。</p>	<p>伝えられること</p> <p>広いほんいの様子</p> <p>細かい部分の様子</p>	<p>アップとルーズには、どんなちがいが</p>	<p>あるのだろうか。</p>
	でも	伝えられないこと	しかし	
		<p>各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ち</p>	<p>うっさい部分の多いこと</p>	

(6) 学習の手引き

学習の進め方の手引き

学 習 の 順 序	学 習 の 仕 方
1 題名を読む。	①題名を読み、何についての話なのかをつかむ。 ②(題名の)話題について、知っていることを話し合う。
2 全文を読む。	①分からない言葉に印を付けながら読む。
3 初めの感想を書き、発表する	①文章や挿絵をもとに、初めて知ったこと・驚いたこと・疑問に思ったことなどを書き、発表する。
4 新しい漢字や語句を調べる。	①新しい漢字を練習する。 ②意味の分からない言葉を、国語辞典で調べる。
5 文章を読み進める。	①形式段落に番号を付ける。 ②「問い」の文を見つける。(—— を引く) ③接続語や指示語、時間を表す言葉を で囲む。 ④主語「 —— 」, 述語「 ~~~~~ 」を見つける。 ⑤文末表現の違いを見つける。 ⑥段落の内容をまとめる。
6 要点をまとめる。	①各段落の中心語句・中心文を見つけてサイドラインを引く。 ②短い文にまとめる。 ③文章構成を考える。
7 説明の仕方の工夫を考える。	①文末表現の違いを見直す。 ②文章構成を見直す。
8 練習と評価をする。	①練習問題を解く。(※必要に応じて、練習教材に取り組む)

5

要約の仕方

※ 段落の要点をつなげて、短くまとめる。
「問い」「答え」「筆者の考え」の段落の要点を取り出して文章にまとめることよ。

★ 決められた文字数に合うように、言葉を選ぶ。

★ 文末を「体言止め」または、言い切りの形にする。
※ 文末を「たげん (もの名前で終わる)」

4

「アップとルーズで伝える」
「読み取りのコツ」 パート2

要点 (段落のポイント)のまとめ方

① 中心文を(一文全部)ぬき出す。
※ 題名がかくれている文をさがす。
「アップ」と「ルーズ」で伝える」

② 接続語「しかし」「でも」を でかこむ。
※ この言葉の前には、反対の意味のことが書かれている。大事なことが書かれていることが多い。
キーワードをさがす。

③ 文章の中でくり返し出てくる言葉
「アップ」「ルーズ」分かる「分からない」
★ 題名と関係のある言葉(中心文に入っていることが多い)

④ 形式段落ごとに短い文にまとめる。

★ 「主語」「述語」を決める。
★ キーワードを使う。
★ 一番大切な言葉を最後にする。
※ 文末を「体言止め」または、言い切りの形にする。